



第三者割当による第14回、第15回 新株予約権の発行に関する補足説明資料

株式会社イオレ

(東証グロース市場、証券コード:2334)

2025年9月9日

- I / 事業概要
- II / 成長戦略
- III / 強化すべき成長戦略
- IV / 本ファイナンスの目的及び資金使途
- V / 新株予約権発行要項



I | 事業概要

事業内容

コミュニケーションデータ事業

「らくらく連絡網」の約700万人のユーザーデータを起点にした広告事業

自社メディア広告	らくらく連絡網  広告
WEB・SNS広告配信	pinpoint 



HRデータ事業

求人広告運用のノウハウを活用した採用支援サービス

広告代理運用	求人検索エンジン広告運用
採用支援システム	 JOBOL
運用型求人広告プラットフォーム	HR Ads Platform 



新規事業

2022年11月以降参入。新たな収益柱を目指し事業を展開

Web3事業	NFT販売代理 ゲームギルド運用
ペット情報メディア	休日いぬ部  Perrole kyūzitsu-inubu
日帰り旅行ツアー	 ポケカル 気軽にお出かけ。学び体験!



事業内容

AIデータセンター事業

GPUサーバーの販売

GPUサーバーの販売

4月15日事業開始



暗号資産金融事業

暗号資産の調達と運用

暗号資産トレジャリー

※7月7日参入を発表

暗号資産レンディング

※7月7日参入を発表

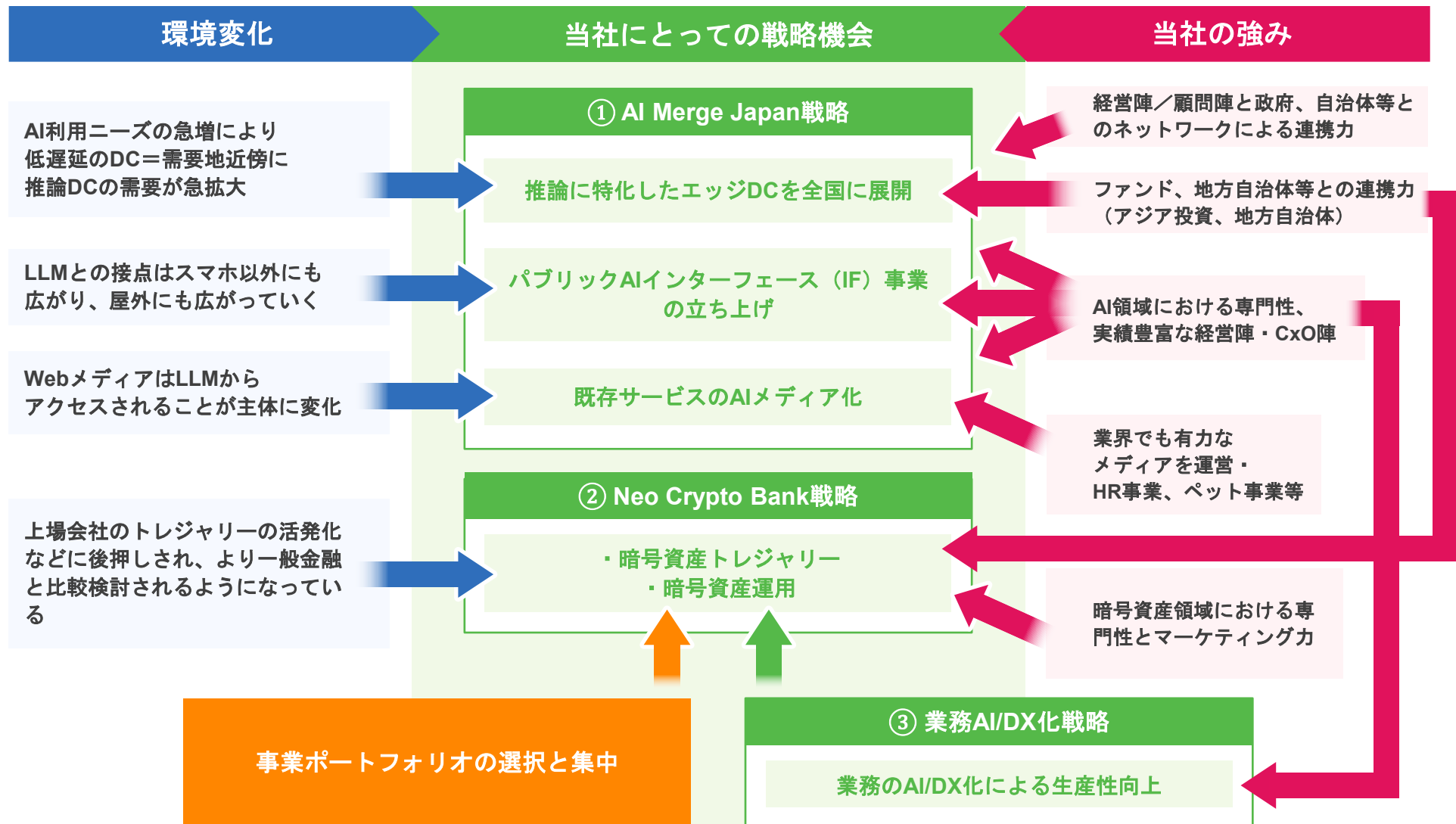


An isometric illustration of a modern office environment. The scene is filled with various elements: people in business attire are engaged in different activities like working at desks, meeting around a table, and walking. There are large digital screens displaying charts and graphs, a cloud icon with signal waves, a globe, and various geometric shapes and lines suggesting a digital or technological theme. The overall color palette is a mix of light and dark blues and greys.

II

成長戦略

環境認識と当社の強みを踏まえた戦略の3本柱

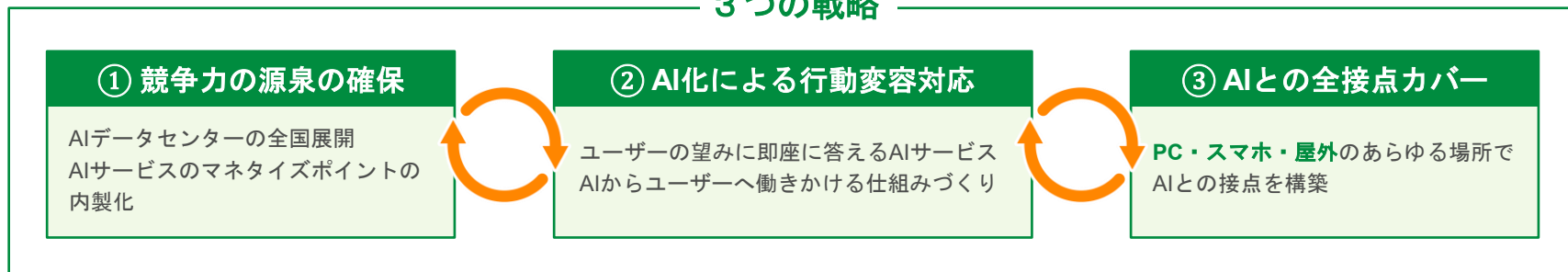


①AI Merge Japan 戦略

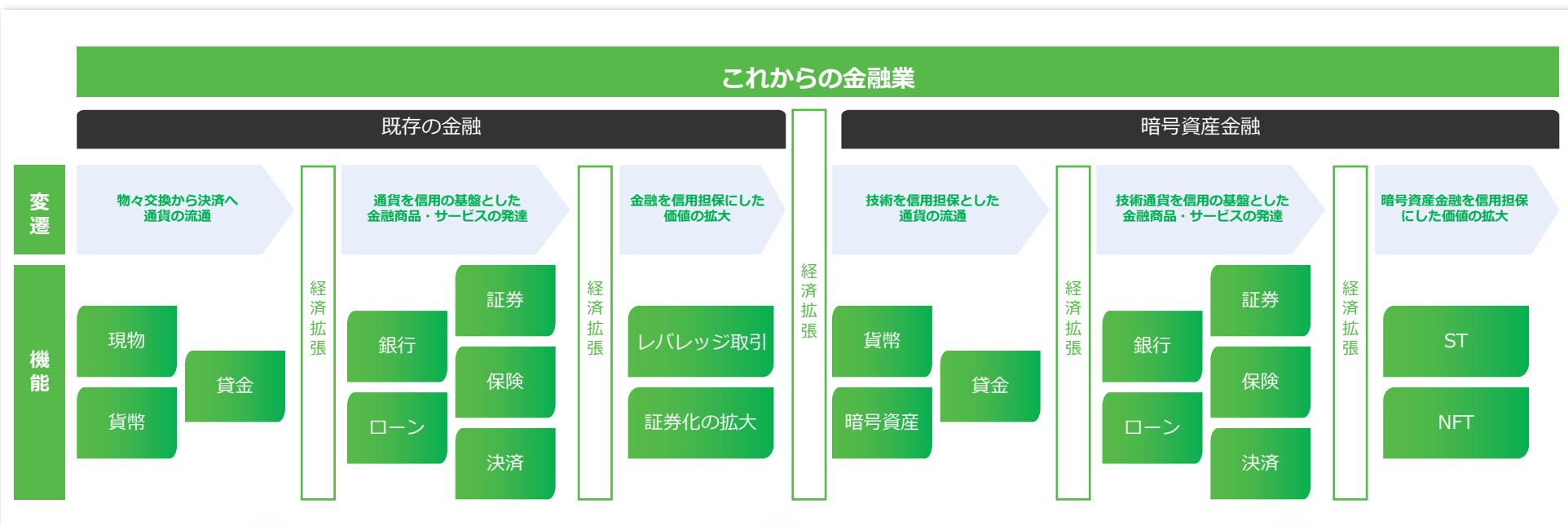
- 日本における**AIと人類の真の融合**を社会全体で設計・主導する
- 私たちは、生成AIの基盤技術ではなく、**AIが現実空間と人間社会に融合する「現場の接点」**に特化する



3つの戦略



②Neo Crypto Bank戦略



戦略

01

速度感のある財務戦略 による経済規模拡大

- トレジャリー事業による資本準備
- 資金運用体制の構築
- レンディングによって資金運用高の拡大

▶Bank機能の資金効率を最大化させる

戦略

02

暗号資産金融業の ユーザーベース化(Bank機能)

- ウォレット機能と運用の展開
- 外貨アクセスサービス
- レンディング機能等記入サービス拡充

▶運用ユーザーをサービスユーザー化する

戦略

03

暗号資産金融市場の入り口としての立場を確立

- 分散型金融サービスを提供
- クレジットカード連動決済
- サービスUXを一般水準で構築する

▶ライトユーザーの参入障壁を壊す



「Neo Crypto Bank戦略」についての詳細については、戦略発表会にて発表いたします。

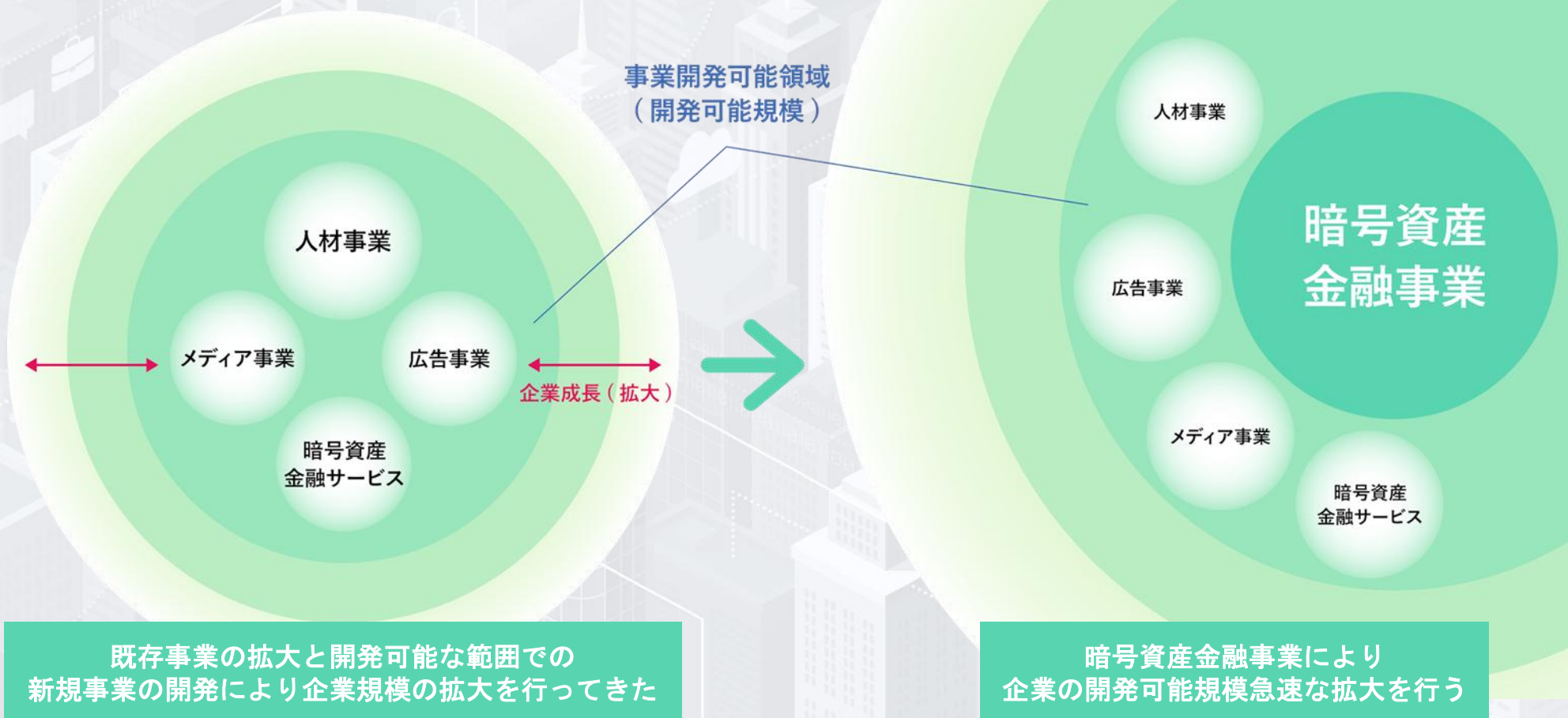


III | 強化すべき成長戦略

イオレ中期経営計画における暗号資産金融業の位置付け

企業規模を金融特性により急速に拡大することで企業としての実現可能な事業規模を最大化する。

これによってAI Marge Japanなどの新規事業をよりアグレッシブに企画推進が可能となる。



次世代の金融スタンダードを目指す暗号資産金融事業サマリ

Factor

01

暗号資産トレジャリーによる企業規模の急速拡張

第一回目の取得をQ2に実施。その後も高頻度かつ大規模に取得を進めていく。

（今期中は3回前後の取得を予定。第一回目の取得後速やかに数値計画を含む事業構想を発表予定）
また並行してセキュリティやチーム体制の強化等の安定的な事業開発の土台構築を行う。

Factor

02

BTCを保有するだけでなく運用まで行う

単純にBTCを保有するだけではなく、保有するBTCの運用も行う。知見を持ったパートナーとの共同事業開発を予定しており、安定的な成長を目指す。

純粋な資産の積み増しでなく、戦略的に暗号資産を事業活用するためのアドバンテージを創る。

Factor

03

暗号資産金融サービスを展開していく

既存の金融基盤の上に暗号資産金融サービスを展開する。暗号資産サービスの一般利用のハードルの高さを金融エコシステムで解消することを目指す。※

暗号資産トレジャリーによって積み上げた暗号資産を活用し分散型金融サービスを展開する。これによって暗号資産ユーザーではなく金融サービスユーザーとしてイオレの顧客開拓を推進していく。

※ペイメントサービスは既存決済UXのアップデートにより社会普及したが、現状はUXの複雑さが暗号資産の一般普及を阻害

暗号資産トレジャリー基本方針

管理体制

- **【ガバナンスの徹底】**
資金を管理にあたり社内のセキュリティ体制やシステムの徹底した設計を行う。財務管理や法務上のリスクの排除のための専門人材の強化を行う。
- **【行政連携】**
行政の方針に沿った適切な事業運営の実施を目指すにあたり、アドバイザーの招聘や各省庁との連携を図る。

資金調達

- **【方法】**
イオレの時価総額の成長に合わせて適切にエクイティファイナンス等による資金調達を実施する。ボンドファナンスなども交えた立体的な調達を計画している。
- **【状況】**
金融機関などの機関投資家を中心に大型の資金調達の調整を進行中。また、事業機会を失わないように速度感のあるファンド等の投資家との調整も同時に進行している。

運用先着

- **【運用方針】**
実績のあるパートナー企業との共同事業の開始により、安定的かつ安全なBTC運用を行う。
- **【レンディング事業】**
暗号資産トレジャリーを実施している企業を中心に暗号資産レンディング事業も計画進行中。複数社と調整中。

規模

- **【基本方針】**
暗号資産金融業を推進するためにはBTCの保有拡大を高頻度かつ大規模な保有拡大が必要であると考えており、速やかにBTCの取得を進行し、分散型金融サービス構築の準備金の積み上げを行い、資産運用により事業アドバンテージを作る。
- **【1stステップ】**
2025年度2Qで初回のBTC取得の実施に向け現在調整中。近日適時開示を予定している。市場の状況を鑑みてその後のBTC取得規模、スケジュールについても適時発表を予定している。

速度

- **【基本方針】**
政府も暗号資産の専門ポストを設置するなど、適切に規制を行い業界を成長させようとしていることが推察できる。また、小規模上場企業による株価対策での安易なBTC投資が活発になっていることから、事業機会が失われないよう速度感を持ってトレジャリー事業を進行していく予定である。
- **【中期目標について】**
BTCの取得スケジュールに関してはBTCの価格やイオレの時価総額、市況の変化などさまざまな環境要因で変動するため取得を実施するタイミングに刷新されたスケジュールの都度公開を予定している。



IV

本ファイナンスの目的 及び使途

本件ファイナンスの目的

調達予定の**約160億円**は、
全てビットコインの購入に充当します。

暗号資産運用事業

BTC運用益により、保有による資産拡大だけではなく、運用収益による利益の拡大を目指す。

暗号資産トレジャリー事業

今回のファイナンスにより
初回の**BTCの購入**を実施し、
自社で**BTCを保有**する。

+

暗号資産レンディング事業

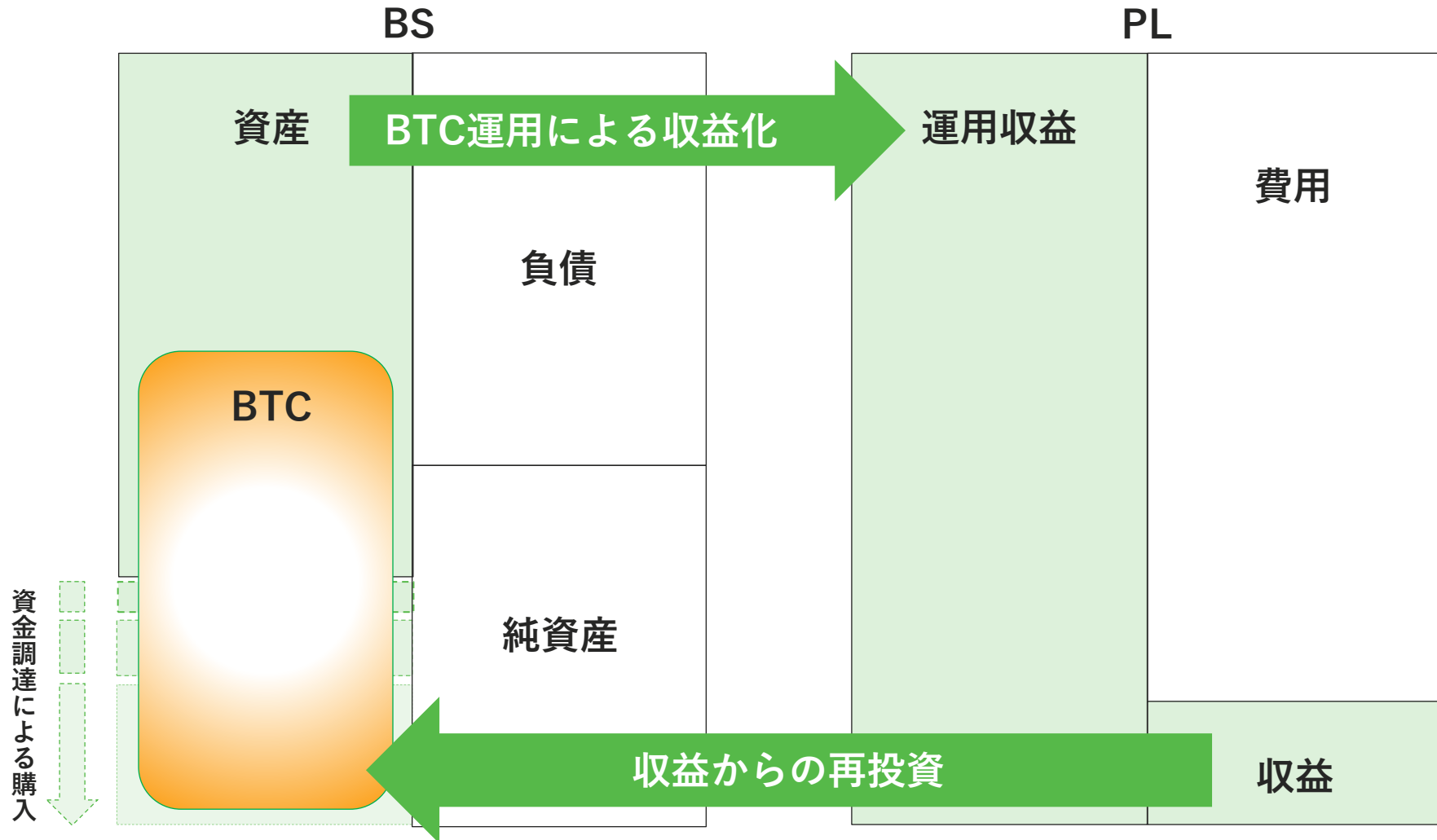
2026年3月期**第3四半期**までにサービス開始予定。
BTCを借り受ける形で経済規模を大きく拡大させる。

=

暗号資産金融事業
の第一ステップで
ある資金調達と運用による**企業価値
の創出**

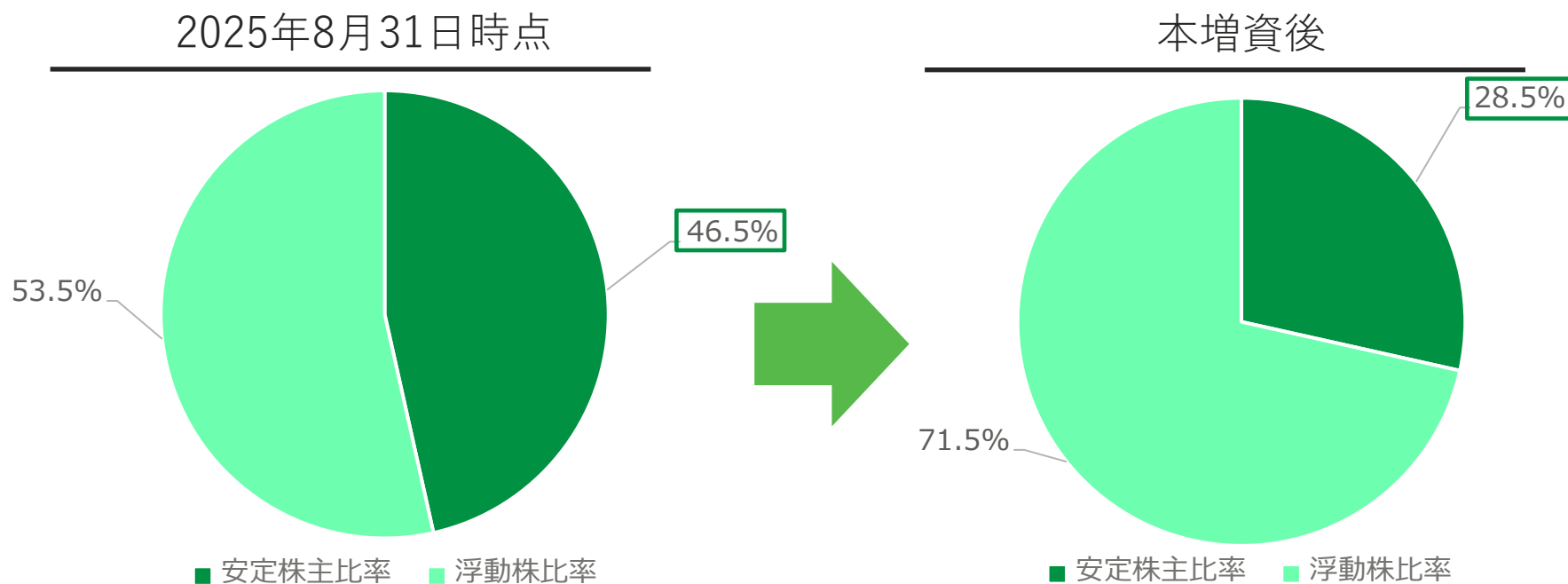
資産の積み増しだけでは本質的な
企業価値へつながらない

購入したBTCの運用により、純資産増加→収益拡大の循環モデル



本件ファイナンスにより株式流動性の向上も企図

- ・ 当社の発行済株数は3,148,992株（8月31日時点）であり、今回、2,000,000株の新株予約権が全て行使されると発行済株式数は、5,148,992株となります。
- ・ これは63.51%の希薄化を伴いますが、浮動株比率は18pt上昇する予定であり、**出来高増加及びボラティリティの減少に寄与するものと想定**されます。



※1 安定株主は、創業者、取締役、従業員及び持株会、ストラテジックパートナー（事業会社株主）の持分を集計

※2 浮動株は、国内・海外機関投資家、個人投資家等、安定株主以外のその他株主の持分を集計

※3 ※2に加え、本件ファイナンスによる増加株式数を浮動株として集計



V

新株予約権発行要項

新株予約権発行要項

発行形態	第三者割当方式により投資家に割り当て
割当予定先	第14回：株式会社SBI証券、 第15回：日本アジア投資株式会社、JAICクリプトアセット株式ファンド投資事業有限責任組合、 ダイナミックソリューショングループ株式会社
発行される株式の総数 (潜在希薄化率)	第14回：1,000,000株 第15回：1,000,000株
新株予約権の発行数	第14回：10,000個 第15回：10,000個
新株予約権の発行価額の 総額	第14回：18,180,000円（新株予約権1個につき1,818円） 第15回：5,750,000円（新株予約権1個につき575円）
払込金額の総額	15,763,930,000円
当初行使価額	7,870円（発行決議日前日終値）
下限行使価額	第14回：3,935円（発行決議日前日終値の50%） 第15回：なし
行使価額の修正	第14回：前日終値の94% 第15回：なし
発行決議日	2025年9月9日
払込期日	2025年9月25日
行使請求期間	2025年9月26日から2027年9月27日まで
期限前取得	取締役会決議により、本新株予約権の払込期日の翌日以降、本新株予約権1個当たり払込金額と同額で、本新株予約権者（当社を除きます。）の保有する本新株予約権の全部又は一部を取得することができる。
新株予約権の取得請求	本買取契約において第14回については、2027年8月27日以降2027年9月27日までに当社への通知により、新株予約権の取得請求ができ、当社は残存する新株予約権の払込金額と同額の金銭を支払い当該新株予約権を取得する
譲渡制限	本買取契約において本新株予約権の譲渡については、発行会社の取締役会の承認を要する

免責事項

本資料は、株式会社イオレ（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として作成したものです。当社は、当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としておりますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、将来に関する記述が含まれている場合がございますが、実際の業績はさまざまなリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合がございます。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料及びその記載内容につきまして、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開または利用することはご遠慮ください。